奥出雲病院介護医療院～虹の郷～を紹介します

Q「介護医療院」はどんなところですか？

A 介護と医療的ケアが必要な方のための長期入所施設です。

奥出雲病院介護医療院では、医師や看護師、介護福祉士などの医療・介護従事者の支援のもと、人生の最期まで安心して生活することができます。明るく家庭的な雰囲気を大切にしており、季節ごとの行事や誕生会なども行っています。

最近ではフィリピンから働きに来ておられる看護補助者の皆さんとも協力し、入所の皆さまには楽しい時間を過ごしていただいています。

※医療的ケアとは、糖尿病のインスリン治療、酸素吸入、喀痰吸引、褥瘡（じょくそう）処置、経管栄養などのことをいいます。

Q どのような方が利用できますか？

A 日常的な医学管理が必要な要介護者の方で、介護保険の「要介護1～5」の認定を受けられた方が利用できます。

また病状に応じ、看取りや緩和ケアを必要とされる方も対象となります。

Q 利用したい時はどうすれば良いですか？

A 担当ケアマネージャーまたは奥出雲病院（地域医療課）までご相談ください。

【お問い合せ】
町立奥出雲病院（地域医療課）
（電話）54―1124

レクリエーション活動 ～収穫祭～

入所されている皆さんに、柿やかぼちゃ、イチョウやモミジなどの紅葉を実際に手に取り触れてもらいました。「家でもなっちょ～よ～」と、自宅での様子を思い出されたり、手作りの芋掘り体験をしていただいたり、笑顔が見られたひとときでした。

虹の郷シアター

ご家族から提供頂いた写真や手紙などを、想いを込めたメッセージとともに映像化し、入所されている皆さんに視聴していただきました。

若き頃のご様子や家族とのかけがえのない思い出を懐かしみ、感極まったご様子の方もいらっしゃいました。

誕生日のお祝い

入所者の誕生日にお祝い会を行いました。歌を歌って手作りのメッセージカードを渡しました。

誕生日は誰にとっても特別な日。普段は口数が少ない方もうれしそうな表情を見せてくださいました。

そうだったのか！ がん専門医による抗がん剤のお話

第４回

【抗がん剤の副作用】

今回が連載4回目、昔ながらの抗がん剤のお話をします。

繰り返しになりますが吐き気・おう吐や抜け毛、感染症の合併、強いけん怠感など、『従来の抗がん剤』は本来強い副作用を伴います。『分子標的薬』や『免疫チェックポイント阻害薬』など副作用の軽い新しい抗がん剤が増えていますが、依然、従来の抗がん剤は非常に重要なお薬です。じゃあ、やっぱり強い副作用は不可避なのね、と思われるかもしれませんが、副作用対策も近年随分と進んできているのです。特に吐き気に対しては良い薬がどんどん出てきています。用いる抗がん剤によって吐き気のリスクは異なりますが、強い吐き気を催しやすい抗がん剤を使用するときは、あらかじめ超強力な吐き気止めを使うことで、患者さんに吐き気が出ないようにすることが可能となっています。30年前にはこの吐き気止めの種類が絶望的に少なかったのです。こういった副作用に対する策のことを『支持療法』と呼んでいます。『支持療法』の進歩が抗がん剤治療を支えているわけですね。

しかし吐き気や感染症などに対しては有効な副作用対策が出てきていますが、いまだに抜け毛だけはどうにもなりません。これに関しては30年前と比べて変化がない部分です。しかしその分、医療用ウィッグ（わかりやすく言うとカツラ）の進歩があり、髪色や髪質、髪形などによって無数の種類があります。若い女性であっても自分に合った自然で違和感のないウィッグを利用できるようになりました。逆にウィッグを使っておしゃれを楽しむ方までおられます。また、髪の毛は治療が終われば、数か月後に必ずまた生えてきます。

このように吐き気や抜け毛を代表にお話をしましたが、多くの部分でこの『支持療法』の発達がみられ、かつてのような副作用で苦しむことが（全くないとは言いませんが）少なくなってきているのです。

次回は新しい薬剤、『分子標的薬』のお話をします。

「健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰」受賞

令和5年度「健やか親子21内閣府特命担当大臣表彰」があり、当院の藤井智穂助産師が功労者表彰を受賞されました。

これはこども家庭庁が、「成育過程にある者の心身の健やかな成育並びに妊産婦の健康の保持及び増進に寄与する取組」に長年携わり尽力された方に対しその功績をたたえるものです。